



消防大学校だより

火災調査科(第25期)

消防大学校では、平成25年6月5日から7月24日までの50日間にわたり、火災調査科(第25期)の教育訓練を実施しました。本課程は、火災調査の指揮・指導者の育成を目的に、座学、実科ともに実践的なカリキュラムとしています。

座学では、火災調査の基本要領に始まり、火災調査を取り巻く法律関係や対人折衝能力、教育技法などを学び、実務上の課題への対応力の向上を図りました。

また、近年、電気火災が増加傾向にあることから、電池の構造、家電製品構造等の授業を加え、今後の火災調査に資する内容としたほか、消防からの情報発信能力を高めるため、情報公開、消防広報の授業を取り入れました。

実科では、模擬家屋火災、車両火災、電気火災、化学火災、微小火源火災及び放火・燃焼機器火災の鑑識

実習を実施しました。

模擬家屋火災の鑑識実習は、約20㎡の建物を4棟仕立て、その内装や家財を実際の家屋と同様に設定し、異なる出火原因で燃焼させた上で、現場と同じように火災調査を進めていくものです。各棟に配置された講師の指導の下、調査の基本から応用まで広範囲にわたる実習となりました。各棟とも、製造物から出火した可能性を見据え、後日、出火箇所付近にあった製造物の鑑識を実施したほか再現実験等を行うなど、科学的かつ客観的な火災調査の実践に努めました。

学生からは、当初の目標を達成することができ、有意義であったとの意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校火災調査科の卒業生としての誇りと自信を持ち、科学的根拠に基づいた火災調査業務を遂行し、火災予防に寄与することが期待されます。



模擬家屋火災の消火



焼損した模擬家屋の調査実習

緊急消防援助隊教育科 航空隊長コース(第11回)

「緊急消防援助隊教育科 航空隊長コース(第11回)」は、本年5月14日から同月25日までの日程で実施しました。

本コースは、消防防災航空隊の隊長、副隊長及びその候補として活躍している者を対象に実施し、航空隊の運用・活動統制、安全管理、広域応援、航空隊と地上部隊の連携、航空隊員の育成等を教育の主眼として置き、そのために必要となる知識及び能力を習得させることを目的としています。

カリキュラムの具体的内容としては、「航空法規」、「航空工学」などの基礎的知識をはじめ、消防庁幹部職員による「消防広域応援の対応」、「航空消防防災の現況」及び「組織編成、運行体制、消防防災関係法規」の講義や、災害時における実働機関である自衛隊、海上保安庁及び警察による「航空運用」に関する講義のほか、受講生全員がそれぞれの所属する航空隊での対応事例を事前に持ちより研究発表を行う「災害活動事例研究」や、東日本大震災で全国の航空隊から応援を受けた宮城県防災航空隊長を講師に招き、応援対応とその実態

についての講義を実施しました。また、海上自衛隊館山航空基地において、自衛隊の組織、役割、活動状況のほか、ヘリコプター実機、航空管制塔、救助資機材及びその使用方法等について視察研修を行いました。

今回の研修を受講した学生からは、「講義の内容は多岐にわたり、災害活動事例研究の内容が幅広く、とても有意義だった。」、「他の航空隊の方との意見交換ができ、お互いに顔の見える関係が構築できたこと、共通の悩みを持つ者同士として知り合うことができた。」、「大規模災害時での航空応援・受援要領が理解できた。」などの意見が数多く寄せられました。

今後、消防大学校で習得した幅広い知識や経験を糧に安全第一に、航空隊の機動力を活かした取組の充実・強化が期待されます。

問い合わせ先

消防庁消防大学校 教務部
TEL: 0422-46-1712



災害事例研究の発表風景



海上自衛隊館山航空基地での視察研修